

04 商品開発・販売

基本情報



【年 齢】
24歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
東京都杉並区
【前 職】
法律関係
【活動時期】
R5.3～

協力隊に応募したきっかけ

学生時代のころから厚田のことを知っており、よくドライブに来ていました。特に聚富から見える夜景に惚れ、10年後ぐらいには住みたいなとざっくり考えていました。タコ飯を作っている方とは以前から知り合いで、東京から帰省するたびにお邪魔していたのですが、実はタコ飯の後継者を地域おこし協力隊として募集しているんだよねというお話を聞き、厚田に住むなら今ではないかと思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

来年からは通年でタコを仕入れることができる体制を整えることを目標に活動していきたいです。また、最も重要な拠点づくりに関しては、大きなお金がかかること、屋根の修復等専門な知識が必要なこと等多くの困難があります。協力隊後を見据え、いつでも住むことができるように冬の間に計画を立て、来年までには使えるような状態にするために専門的な知識や資格の習得や、拠点づくりに取り組んでいきたいです。また、来年も引き続き地域との交流を深めて顔を覚えてもらいたいです。

活動内容

●地域の特産品（「タコ飯」の継承）

石狩市初めてのミッション型地域おこし協力隊として、地域の特産品「タコ飯」の継承を中心に活動しています。とはいえ、地域の方とも接したくて協力隊になったので、まずは地域のイベントや他の協力隊のイベントに参加、お手伝いすることを中心に活動しています。

ミッションであるタコ飯も一通り一人で作れるようになりました。二年目からはタコ飯を作る速度のスピードアップとともに、タコ飯の課題解決、拠点づくりを手がけていきたいです。



タコ飯は一通り作れるようになりましたが、活動していく中で課題が多く出てきました。まずはタコ飯を作るスピード、次にタコ不足、最後に最も重要なものが拠点づくりです。来年からは一日300個を一人で作れるようにスピードを上げること、今年は8月でタコが無くなってしまったので、通年でタコを仕入れることができる体制を整えることを目標に活動していきたいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（職場））r2303001@city.ishikari.hokkaido.jp
（電話番号（職場））0133-78-2020

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（フェイスブック）<https://www.facebook.com/vladimir.lewis.39>

基本情報



【年 齢】
22歳
【出身地】
群馬県伊勢崎市
【転出元】
群馬県伊勢崎市
【前 職】
大学生(2023年卒)

【活動時期】
2023年4月～（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

ふるさとワーキングホリデーで気仙沼を訪れた際、気仙沼の人の温かさと挑戦に満ち溢れた環境に心惹かれ、移住を考えるようになりました。気仙沼に移住するなら基幹産業である水産業に関わりたと思っていたところ、気仙沼水産資源活用研究会について知りました。「気仙沼の豊かな水産資源に新たな価値を見出し、若者が帰ってきて働きたくなるような産業をつくりたい」というビジョンに魅力を感じ、気仙沼水産資源活用研究会の協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

【今後の抱負】 kesemoの事務局としてkesemo PR活動を行うと共に、水産業に関する知見を深めていきたいと考えています。

【任期後の目標】 任期後のビジョンは、明確には決まっていますが、「水産業」×「教育」によって気仙沼の魅力を地元の子どもたちが再確認できる機会の提供や他地域への発信を行っていきたいです。

活動内容

●気仙沼水産資源活用研究会(kesemo)事務局

気仙沼の水産資源から新しい価値を創造するために、地元企業20社以上の知恵と想いを結集させた水産加工製品ブランド「kesemo」の事務局として活動しています。主に、各WGや役員会など会議の開催・記録を行っています。また、市内イベント等に参加し、研究会の取組紹介や開発商品のPRにも力を入れています。



●学生ボランティアとして活動

教育に関心があり、大学生の時は中学校で学生ボランティアとして活動していました。気仙沼に移住してから、教育に関わる機会はあまりありませんが、気仙沼ESD（持続可能な開発のための教育）を中心として地域資源を積極的に活用する気仙沼の教育に魅力を感じています。そのため、任期中から市内の教育に携わる方法や機会を模索しています。

●ぬま大9期生として活動中

「気仙沼で何かやってみたい」そんな想いをもつ若者が、約半年間、「自分を知ること」と「地域とつながること」を大切にした全6回の講義を通して、自分が気仙沼で実行するプラン（＝マイプラン）をつくりあげていくプログラム「ぬま大」に参加しています。

気仙沼に移住し、水産業に関わっていく中で、「気仙沼と地元群馬をつなぐ活動がしたい」「内陸地域の子どもたちが魚や海を身近に感じ、興味を持つきっかけを作りたい。」という気持ちが芽生えました。現在は、「やってみたい」を実現させるためのアクションに取り組んでいます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス） contact@kesemo.com

（電話番号） 気仙沼市産業部水産課内 0226-22-3435

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

気仙沼水産資源活用研究会（kesemo） <https://kesemo.com>

基本情報



【年 齢】
32歳
【出身地】
北海道小樽市
【転出元】
北海道札幌市
【前 職】
銀行員
【活動時期】
R4.4～R7.3（予定）

協力隊に応募したきっかけ

地域おこし協力隊をやりながら、将来の夢を叶えられると思ったことがきっかけです。カレーの聖地金沢でカレー屋を起業したいという夢があり、一旦は金沢の一般企業への就業を考えていたのですが、偶然地域おこし協力隊の募集を見つけ、選択肢の1つとして捉えるようになりました。金沢に初訪問した際に、募集地域を視察する機会をいただき、地域の方の温かさや、山手の自然豊かな環境に感動しました。自分の思い描くカレー屋のビジョンが浮かび、応募に至りました。

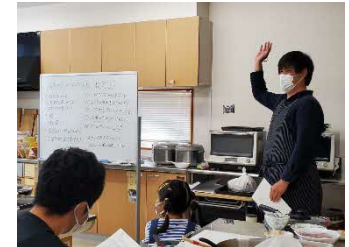
今後の抱負・任期後の目標

カレー屋起業に向け、物件探しをはじめ、綿密な経営計画を立てていくことが目の前の課題です。そのためには、地域資源の再発見や情報発信、地域の方々とのコミュニケーションは欠かせません。また、スパイスカレー教室やこども食堂「みんなのカレーハウスさいがわ」の運営、「さいがわスパイスカレープロジェクト」の推進といった「カレーで地域おこし」事業にも力を注ぎたいと思います。

活動内容

●山ちゃんのスパイスカレー教室

地域の方々に、スパイスから作る「スパイスカレー」を知っていただきたいという想いで始めました。10月末現在で計8回実施しており、対象は地元の小学生と保護者の方で、「食育」もテーマに行っています。また、地域の方や農家さん等のご協力のもと、色々な取組に挑戦しています。



●こども食堂「みんなのカレーハウスさいがわ」

2023年6月から開催している、スパイスカレーを中心としたカレー専門のこども食堂です。地域住民であれば誰でも参加可能で、これまでに3回開催し、毎回予約は満席でした。地域の方から寄付いただいた野菜を使い、美味しいカレーを食べながら多世代交流を図るのが目的です。



●さいがわスパイスカレープロジェクト

「犀川地区を表現したデカ盛りのスパイスカレーを作ろう」というコンセプトで、今年4月から始めました。地元のデザイナー、陶芸家、料理好きの方々、金沢大学の学生をメンバーに構成し、アイデアを出し合いながら着々と進んでおります。先日、NHKで放送もされ、完成へ期待が高まります。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（個人or職場））saigawa.kyoryokutai@gmail.com
（電話番号（個人or職場））080-6099-3712

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（インスタグラム）https://www.instagram.com/saigawa_kyoryokutai



基本情報



【年 齢】
24歳
【出身地】
福岡県那珂川市
【転出元】
福岡県那珂川市
【前 職】
漆器製造会社勤務
【活動時期】
R5.10～（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

- ・もともと漆器に興味があり、伝統工芸の専門学校（専攻：漆工芸）に進学し、漆器職人を目指していた。
- ・専門学校時代に塩尻市の漆器工房にインターンシップで訪れており、当時から木曽漆器に興味を持っていた。
- ・前職の漆器産地は徹底した分業制だったこともあり、職人として下地から仕上げまでの技術習得をしたいという思いから、別の産地での修業を検討していた。
- ・漆器の魅力を同世代に広めていきたいという思いがある。

今後の抱負・任期後の目標

活動期間中は、師匠となる産地の熟練職人から漆塗り技術を学び、漆器製造の一連の基本技術を身に付けるべく研鑽を積んでいきたい。また、日々の活動や木曽漆器に関連する情報発信を通じて、木曽漆器の認知度向上や同世代へのPR役割を担っていきたい。

任期後も定住し、一人の木曽漆器職人として産地の仕事をしながら自分の作品も作っていくことで、産地の後継者となることを目指す。

活動内容

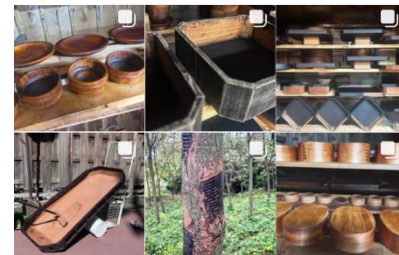
●国指定伝統的工芸品「木曽漆器」の技術習得

木曽漆器産地の「職人の高齢化」「後継者不足」「技術継承」といった課題解決のため、産地の卓越した技術を持つ熟練職人のもとで、下地から仕上げまで一連の漆器製造技術の習得を目指す



●木曽漆器の認知度向上のための情報発信

- ・日々の修業の様子をSNS発信で情報発信
- ・漆器の製造工程や技術を紹介する動画制作



●地場産業振興のためのPRイベント参加

- ・市のブランド発信のための県外イベント等に参加し、漆塗りの実演や来場者に木曽漆器の魅力を伝えるアテンド等を行う予定

※画像はイメージです



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（個人or職場））bamboonosato_19@yahoo.co.jp
（電話番号（個人or職場））080-9051-0884

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

https://www.instagram.com/kisoshikkicooperator_/

基本情報



【年 齢】
44歳
【出身地】
京都府城陽市
【転出元】
東京都江戸川区
【前 職】
販売スタッフ
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

茶農家の「作り手の思い」をたくさんの人に伝えていく取り組みに携わりたいと思った。和束町の風景はとても美しく、長い年月をかけて大切にされてきた茶畑に、和束町に住む人々の「丁寧な生き方」を感じた。そんな和束町で今ある和束町の魅力の中に、和束町民が当たり前すぎて気づけなかったものを見出し、観光に訪れる観光客の方々に和束町の温もりを感じていただけるようPRしていきたい。

今後の抱負・任期後の目標

和束町の地域おこし協力隊としての任期中、そして任期後の一町民となった後も、私のライフワークとして行う全ての行動目的が「和束町の魅力に惹かれ、気付き、移住とUターンで戻ってくる町民人口を増やす」こと。和束町には茶農家さんをはじめ、様々な分野で「作り手」として、そして、未来を創造していく力を持った素敵な人たちがたくさんいる。インターネットを使い、和束茶の魅力をもっと多くの人に発信できる能力と、日本文化としてのお茶の知識を得るために日本茶インストラクターの資格取得を目標に掲げる。

活動内容

●和束茶カフェ

和束茶カフェにて、和束町内の茶農家さんが生産されたお茶を陳列。お客様の好みに合ったお茶を選び、購入いただくことで、和束茶の魅力発信や顧客満足に努めている。



●茶源郷見聞録

お茶の歴史、文化、作り手の思い、楽しみ方、品種など茶産業界の様々な情報を発信するWEBサイトを制作。



●イベントへの出店

人一倍大きな声で、積極的な呼び込みで多くのお客様の注目を集め、たくさんの方々に和束茶を手にとってもらっている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人or職場)) chiikiryouku@town.wazuka.lg.jp
(電話番号(個人or職場)) 0774-78-3002

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

基本情報



【年 齢】
34歳
【出身地】
群馬県富士見村
【転出元】
山口県下関市
【前 職】
大手食品メーカー
【活動時期】
R3.11～R6.10

協力隊に応募したきっかけ

昔からやりたかった狩猟の仕事をするために
唯一、ジビエの地域おこし協力隊を募集していた
大豊町への移住を決意しました。

今後の抱負・任期後の目標

自ら捕獲した鹿の角を使ったアクセサリー、ペットフード
の製造販売をしてジビエで生計を立てる。
有害鳥獣の被害を削減できるように今後活動エリアを
広げ、技術を向上させる。

活動内容

●野生鳥獣の捕獲～加工販売

自作の罠を使い、鹿・猪などの野生鳥獣を
生け捕りにし、解体から加工まで一貫製造を行っている。
（現在研修中）

●有害鳥獣駆除

地域からの要望を受けて、田畑を荒らす有害鳥獣を
駆除する。

●アクセサリーの制作

捕獲した鹿の角を有効に活用するためアクセサリー
として指輪、ピアスなどに加工し販売している。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））gibierlabo0604@gmail.com
（電話番号（職場：大豊町役場））0887-72-0450

【活動の様子を発信しているSNS】
（インスタグラム）



@GIBIER.LABO